

県と岡山、倉敷市が無料実施

妊娠初期の風疹感染で胎児に障害が残る先天性風疹症候群（CRS）根絶を狙いに、県と岡山、倉敷市が実施する無料抗体検査の利用が低迷している。今年4～6月の受診者は計540人。2014、15年度の年間4000人前後を大幅に下回るペースだ。県などは19、20日に岡山大医学部（岡山市北区鹿田町）で開かれる啓発キャンペーンで受診を呼び掛ける。

県健康推進課などによると、風疹の予防接種は1995年度に集団接種から任意の個別接種に切り替わった。女性は大半が妊娠を前に接種する半面、男性は受ける人が少なく20～40代を中心に抗体を持たない人が目立つという。15年の県内の発症者はゼロだったが、全国的に流行した13年は76人に上った。

検査は県と2市が妊娠を希望する女性や家族らを対象に抗体があるかどうかを

風疹抗体検査利用低迷

調べてもらおうと、14年度から費用を予算化。16年度は約3600人分、計2300万円を計上している。同課は「罹患歴^{りかん}や予防接種を受けたか不明の場合、まず抗体検査を受けて」としている。

キャンペーン（岡山大大学院保健学研究科主催）は、同大医学部臨床第一講義室で開催。19日は午後1時から、医師らが風疹流行やCRSについて講

19、20日岡山 啓発キャンペーン

演した後、患者会「風疹をなくそうの会 hand in hand」のメンバーが「CRSの子どもへの理解」と題して話す。無料。

20日は午前9時半から県の担当者が検査を紹介。妊娠、出産などをテーマにしたドキュメンタリー映画「うまれる」の上映（観賞料500円）もある。

問い合わせは同研究科中塚研究室（086-235-6538）。（水嶋佑香）